

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち11月～3月号で、参加した生徒の報告書を紹介します。

参加報告

プラチナ社会に向けて

泗水中学校3年 江藤 茅さん



私は、プラチナ未来人財育成塾でさまざまな講義を受けました。初めに小宮山宏先生の講義を受けました。小宮山先生は2050年の世界を中心に話をされました。その講義の中で私は、世界を「変える」ためには人財が必要という言葉が心に残っています。情報社会となり、AIの活用も増えていくなかで、やはり、これから求められるのは人財であり、AIとの共存が大切だと思いました。

次に、菊池康紀先生の講義を受けました。多様な解について話をされた講義の中では、レジ袋とマイバッグの話がとても印象深かったです。マイバッグの方がエコな買い物だと私は感じましたが、実はレジ袋を使用した時とあまり変わらないことを知って、とても驚きました。自分の中や周りからの固定観念にとらわれないようにすることが大切だとわかりました。

野城智也先生のサステナブルな建築についての講義では、エネルギーを使わないようにするという話がとても印象深かったです。エネルギーを使わなくても使用することが建物があふれることを知って、とてもおもしろいと思いました。また、エアコンを使用する時に風を上に向けてるなど、少し

工夫するだけでもエコにつながることを分かったので、学校で試してみたいと思いました。

養田秀策先生の人と人とのつながりについての講義では、多様な価値観を互いに理解する大切さを改めて感じることでできました。0か1かの世界だけでなく、互いを理解し合って適応していくことが大切だと学校でたくさんの人に伝えたいと思います。

村山齊先生から人との違いについての講義を受けました。先生の経験で、何度も挫折をし、出会いと環境の大切さを知ったという話を聞いて、いろいろなことに挑戦することでもたくさんの人と出会うことができ、人を受け入れる力が自然と身に付いていくようになることがわかりました。学校のみには失敗することの大切さと、その失敗をどう生かしていくかを考えることの大切さを伝えたいです。

谷田川ルミ先生の教育についての講義では、「信念」と「知識」を大切にしたいという話の、やりたくないという思いも必要という言葉がとても心に残っています。自分のやりたくないという思いに無視をしないで、その思いも大切にしていくなければならないと思います。教育は未来のために行って

いるもので、課題を解決するためには、目標を変えることも大切ということが分かりました。

最後に、石川明美先生から国連専門機関であるUNIDOについての講義を受けました。私は初めてUNIDOという言葉を知りました。石川先生が南スーダンに行った時、南スーダンの人はSDGsを知らないのではないかと話をして聞いて、貧困が続いている国では、SDGsを考えるほどの余裕はないという現状が分かりました。そのため、SDGsを知っている私たちから活動をしていき、その活動を広めていく必要があるなと思いました。私もごみの分別など、小さなことから始めたいと思いました。

今回のプラチナ未来人財育成塾で、さまざまな視点からたくさん学ぶことができました。学んだことをもとに、2050年の自分の姿を想像するのは少し難しかったです。私は、身の回りにある課題を他人事として捉えずに、自分事として課題解決に向けて取り組んでいきたいです。全国から人が集まり、住んでいる場所も年齢も違う人が一つの班に集まるので、さまざまな意見や住んでいる地域の特徴を伝え合う交流の時間がとても楽しかったです。

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち11月～3月号で、参加した生徒の報告書を紹介します。

参加報告

複雑な課題を解決するために

泗水中学校3年 伊藤如央さん



私は、プラチナ未来人財育成塾の活動を通して、価値観を認め合うことや省エネなど、これからの人生で大切になってくることを学びました。

その中でも、谷田川ルミ先生の「複雑な課題を解決するためには」という話が一番印象に残りました。複雑な課題を解決するためには、一つの方向から考えるだけではないことを知り、課題を解決するために大切な二つのことを学びました。

一つ目はさまざまな科目の知識を組み合わせて考えることです。例として、地球温暖化の問題解決についての話を聴きました。グラフを読み取ったり、データを計算したりするための「数学」、天候のメカニズムを知るための「理科」の知識を使い、世界のこれまでの気温の変化や地形との関係を考えるための「地理」など、問題解決のためにいろいろな科目の知識を使っていることが分かります。さまざまな科目の知識を使って考えることは課題解決のために重要なことだと知り、教育の大切さについて学ぶことができました。

二つ目は、大勢の人たちと一緒に考えることです。この大切さは、プラチナ未来人財育成塾のグループワーク

で実感しました。私たちのグループで二酸化炭素を減らすためにはどのようなことをすればよいだろうと考えたことがありました。その時、「二酸化炭素を酸素と炭素に分ければいいのではないか」という意見が出てきて、その意見をもとに「分けたあとの炭素はどうするのか」「酸素と炭素に分けることができるのか」と話を広げることができました。

私一人で考えていけば、そのような発想をすることはできなかったと思います。大勢の人たちと一緒に考えることで視野が広がり、有意義な話し合いを進めることができました。

また、一つのグループごとに3人のチューター（中学生だけでは難しいことなどを助けてくれる人）がいました。その方々のおかげで話し合いがスムーズに進んだり、二酸化炭素を酸素と炭素に分ける技術があることが分かったりしました。「大勢の人たちと考える」ことの中には「さまざまな年代の人たちと考える」という意味も入っているのではないかと思います。

さらに、私のグループでは、中国から来た人やイギリスの学校に行っていた人、将来、科学者になりたい人など、さまざまな考えや文化を持つ人が

たくさんいました。

最初のグループ活動ではなかなか意見が出ず、静かな雰囲気でした。しかし、「そんな文化があるのだな」「確かになぜそうなるのだろうか」と考え、関わっていくにつれて、意見が出るようになっていきました。最終的に意見を書いた付箋紙の数は私たちのグループが一番多かったと思います。お互いの考えを認め合い、興味を持つことで意見が出やすくなり、深い話し合いができるということを学びました。

これから問題が起きたとき、解決するためには何ができるのか考えました。それは、さまざまな視点から物事を考えることだと思います。さまざまな視点から見ること、たくさんの方々のアイデアが生まれ、より良い方法を導くことができます。そして、視点を変えることでさまざまな立場の人の考えに寄り添うことができると思います。人の気持ちも考えながら講義で学んだことを生かしていきたいです。

これから生活する中で、トラブルに直面することがあるかもしれませんが、プラチナ未来人財育成塾で学んだことを生かしていきたいと思っています。